

# 特集 環境先端都市を目指して

# こでん

小型電子  
電気機器

# リサイクル

使用済みの小型電子・  
電気機器の回収試験  
を実施しています

市が取り組んでいる事業の中から、「こでんリサイクル」と「バイオ・ディーゼル燃料」の取り組みをご紹介します。

株式会社エコリサイクル 代表取締役社長 山口 潔きよみさん



市では、東北大学が中心となって立ち上げた「RtoS研究会」からの依頼を受け、秋田県、JOGMEC（独立行政法人石油天然ガス・金属鉱物資源機構）、DOWAエコシステム(株)、(株)エコリサイクルおよび(株)いとく、と共同で「使用済み小型電子電気機器の回収試験」を平成18年12月15日から続けています。「こでんリサイクル」のデータ収集や分別を担当している(株)エコ・リサイクルを訪ね、リサイクルの最前線を見せていただきました。

## リサイクルのできる材料を取り出し、送り出す

当社の業務は、産業廃棄物・一般廃棄物の処分、第1種フロソ類回収などです。柱になるのは、家電4品目(冷蔵庫、テレビ、洗濯機、エアコン)のリサイクルで、業務の9割以上を占めます。これらの使用済み家電は、青森、秋田、岩手の北東北3県のエリアから、年間で約17万台が運び込まれ、ほとんどが手作業で分解されます。

家電4品目は、家電リサイクル法によって回収が義務付けられているもので、それぞれに再商品化率が定められています。例えば、20kgの冷蔵庫だと、分解してリサイクルに回す材料を10kg取り出さなければならぬということになります。

当社の再商品化率は、テレビ90%以上(55%「法の基準」以下

同じ)、冷蔵庫60%以上(50%)、洗濯機70%以上(50%)、エアコン80%以上(60%)と、法の基準を大きく上回る数値を達成しています。

## 立地環境が強み

リサイクル事業の中では、運搬コストが大きな問題になります。大館市には多くのリサイクル関連事業者が立地しているのですが、事業が効率的につながっています。例えば、当社と隣接するエコシステム秋田(株)は、直接パイプでつながっており、冷蔵庫の分解で発生する(断熱材に入っている)フロンガスは、このパイプで送り高温で破壊されます。

その他、廃棄物の中間処理、最終処分を行う事業者が立地する環境が、リサイクルを行っていくうえで大きなメリットにつながっています。

## データ収集の段階です

使用済みの小型電子電気機器(こでん)は、一般廃棄物扱いになります。当社はこれらを扱う資格もありますので、今回のデータ収集試験に携わることになりました。

市内から集められた「こでん」は、製造年代や量を記録しています。分解作業のほとんどは手作業で行われますが、ここでは家電4品目のノウハウが生かされています。

分別された稀少金属(レアメタル)を含む基板は、含有物などを考慮し、記録して保管しています。

## こでんは一般廃棄物

家電4品目やパソコン、自動車などについては、法的な整備があり、リサイクルのシステムもあります。しかし「こでん」は、